

<今朝の聖書から>

村上定幸

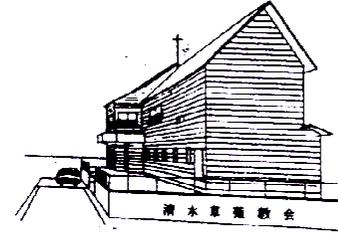
【本気か冗談か】面白い経験がありますので、紹介してみましょう。私と草薙教会の兄弟とが修養会に行った時のことです。遠くから来られた初対面の姉妹が、御自分を紹介されるのに、“主人が〇〇大学を卒業してること知られてます”と仰るのです。最初冗談かと思い、“私の〇〇大学じゃいけませんか”と冗談で返そうと思いましたが、どうやらこの話は冗談でもなさそうなのです。“もし本気だったら”と思ってやめました、その後の話を聞きましても、本気らしいのです。もっともこれがウケを狙った冗談だとしたら、覚えてもらうには、なかなかいいかもしれません。

【誉】この姉妹は“私の存在は大きく重んじられるのだ”というのでしょう。そして今朝の司書箇所 5:44 にそのことが記されています。“互いに相手からの誉れは受けるのに、唯一の神からの誉れは求めようとしないあなたたちには、どうして信じることができようか”と主イエスは仰います。“相手に勝つこと、そして名誉なこと”どんなに私たちは、この尺度で測ろうとすることで、自分自身を悲しい立場に追いやってしまっていることか思い出したいものです。そして残念ながら、人に対する誇りが証しという形で語られ“立派な証しだ”と絶賛されることもあります。以前の説教の箇所“彼らは殺そうとした(実行した)が、イエスの時はまだ来ていなかった(7:30)”というところでお話しましたが、私たちは時に、どうやって神殿から逃げ出すことが出来たのか、その術を知りたいものだ、と考え、もしハッキリしたらそのことで主に誉を帰そうとする時があります。しかし聖書は説明してくれません。聖書はただ“イエスの時”という言葉を使うことしかしません。神の都合によって決まるということしか分からないのです。旧約聖書に比べて、“まだなっていないことがあった”などということも、福音とは関係のない説明です。神の主権(都合)、全て信仰は私の内で生まれるのではなく、信仰を受け入れることが出来る、外からの神の言葉によって与えられたものなのです。ヨハネ福音書も(多くは書かれたと記してきましたが)聞かれた言葉です。最初の頃の教会において、おまけに様々な異端と、解釈している主張が交錯する中で聞かれました。そして信仰を得てきたのです。

【身近な信仰者】5:43“わたしは父の名によってきたのに、あなたがたはわたしを受け入れない。もし、ほかの人が彼自身の名によって来るならば、その人を受け入れるのであろう”という箇所に注目しましょう。モーゼのように遠くにいる人ではなく、実は身近にいる信仰者に誉を帰すことをしているのでしょうか。実はいっぱいいることを、思い出すべきでしょう。捜してみれば分かるに違いありません。不運の塊のように思えることも、“主のくびき”としてその方には軽い時が実に多いのです。同じ教会の礼拝に集うクリスチャンが何家族あるか、ということの問題に誉とされることがあります。そして残念ながら草薙教会には少ないのです。このように教会が教会に誇るどころには主の誉れはありません。“私たちは残念に思っている”と告白できるところに主の誉れがあるようです。クリスマスを迎える時、私たちは祝います。しかし大切なことがあります。それはどんなに小さな群れであるかと思われ知らされるのも、クリスマスであり、新年だということです。喜びが何処にあるか、“小さな群れに与えられた私たちの父の約束”にあるのです。

週報

2011年 12月 4日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042